

西川産業(株)日本睡眠科学研究所長	古川 雅嗣 様
(一社)日本ゴム工業会事務局長	青木 正己 様
ウレタンフォーム工業会専務理事	大川 栄二 様
(株)ブリヂストン加工品新事業開発室課長代理	中西 貴浩 様 (*欠席)
(株)ロマンス小杉マーケティング部 MD	竹内 伸一 様
(一財)ボーケン品質評価機構開発部課長	坂井 史治 様
(一社)日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良 中村 富夫
オブザーバー	
(一財)ボーケン品質評価機構東京事業所係長	大口 達郎 様 (*欠席)
(一財)ボーケン品質評価機構東京事業所	丸山 智生 様

第4期業種別委員会：第12回ウレタン・敷部会議事録

1. 開催日時 平成30年2月13日(水) 10:30 ~ 15:00
2. 開催場所 (一社)日本寝具寝装品協会
東京都中央区小舟町7-2 小舟町243ビル7F ☎03-6661-0213
3. 議題(1) NITTA/住友理工式体圧分布データ同調検討について
 - (2) ウレタンフォーム物性試験データについて
 - (3) PE固綿のJIS物性比較データについて
 - (4) 寝返り試験(株)東洋クォリティーワン法使用について
 - (5) 特性評価シート(硬さ、へたり、寝返り等)表示について
 - (6) 他

議事録 議題(1)

古川部会長：(資料説明)当部会12回重ねたが、決めるべき課題はまだ沢山ある。

奥谷専務：流通業界含め、ウレタン、寝具業界全員参加で消費者目線での製品評価ガイドライン実施策を図りたい。

丸山主任：(資料説明)ニッタ式、住友理工製の両社測定器に一定の差値があるのかを検証してみたが、数字の差が夫々大きいのでどちらが正しいとは説明できない。ニッタ式では片寄データポイントが多い。シートが4層と2層部分では違っている。住友理工製は柔らかさと凹凸形状でデータが軽い荷重時に表れにくい。ニッタ式にカラー調整を合せるとしても、試験材形状によってどういうデータになるか予測がつきにくい。

青木委員：ニッタ式と住友理工製では全てのデータがイコール表現となりえていない。

丸山主任：両社のキャリブレーションの差なのかと思うしかない。前回、差をつけたが今回も、綿入れせんべい敷ふとんでは均質試験材として見たときにデータとなりえていない。住友理工製は高い圧を拾いやすいが、ニッタ式は低い圧を拾いやすい。両社併用の際には説明しにくい。

青木委員：ニッタ式はキャリブレーションもしっかりしているが、住友理工製は入力値がないのでモデル人体が必要となる。

丸山主任：モデル人体をニッタ式で計測し、住友理工製でカラー補正調製は可能であるが全てのものには当てはまらない。

- 奥谷専務 : 2社でやろうとするとツジツマが合わなくなる部分がある。操作手順性は住友理工製。歴史はニッタ式。小売業界では住友理工製が多く、介護研究分野ではどちらが主流なのか。
- 青木委員 : カタログでの現行／新品の当社比較では可能である。個別品のみでの体圧分布データでは測定装置が違っていると見え方が異なる。
- 大川委員 : 標準体型での体圧分散性効果の早見表があればよい。
- 青木委員 : 製品データでの差異は理解できるが、素材詰めものデータで差異が生ずることは駄目である。1社に特定して、それに見え方を合せる方法しかない。
- 大川委員 : 住友理工製のカラーレンジを補正統一することしかない。絶対的に数値は合わないので考えないことである。

- 青木委員 : 平らなマットでの基礎データをとればよいのではないか。
- 奥谷専務 : 現状製品は複層タイプであり、40%か25%圧縮試験法でデータも違ってくる。
- 大川委員 : 平板 100×200×8cmの柔らかめマット1枚、普通1枚、やや硬め1枚、硬め1枚、超硬め1枚、厚さ4cm低反発1枚、そして奥谷専務からはプロファイル1枚を用意するので、マネキン使用して重りを乗せるのと、中村人体での荷重試験をボーケンで2社測定器での試験を願いたい。
マットレスの硬さによって、データ逆転があるのかの測定確認もする。

(注) 2月28日午前10時～上記測定を実施する。

- 青木委員 : 一度、2社に同席頂く中でデータ違い等を検討することも必要と思う。

議題 (2)

- 大川委員 : (資料説明) 試験結果分析では各データの相関性はほとんどない。ポリウレタンフォームは一般的にどうなのかと言われるが、各メーカーごとに分子量ポリマー配合比が違う。

(案)

へたり表記	★★★★	★★★	★★	★
	20%未満	20以上30未満	30以上40未満	40%以上

* JBA へたり標準値 40%以下でよいのか、メーカー会員に聞いてみる。

- 硬さ : 次回 30cm角フィーリングサンプルを持参するので、柔らかめから超硬めまでを検討して頂きたい。

保温性は密度と厚さの相関である。(ウレタン熱抵抗値=熱伝導率 0.04)

(案)

★★★★★	★★★★★	★★★	★★	★
100以上	80~100	60~80	40~60	40未満

- 通気量は 生地／構造に左右されるので表記しない

議題 (3)

- 丸山主任 : (資料説明)
- 大川委員 : PE 固綿の JIS-A1412 熱伝導率 (保温性) データは、試験報告書未出だが、0.05 数値との事であった。ウレタンフォーム 0.04 数値である。

議題（4）

- 奥谷専務：寝返り試験は、低反発との違いとか把握すべきである。東洋クオリティワンのロイヤリティーを業界施策なので理解頂き一括支払協議としたい。
ボーケン品質評価機構で試験に際しては、マネキンの他に何が必要か？
- 大川委員：寝返り試験場は2坪程である。加古川工場に丸山主任他を見学アテンドする。
日程は先方都合もあり後日報告する。
寝返りしやすさ★マークをデータ取得して表記するのがよい。

議題（5）

- 古川部会長：（資料説明）
- 大川委員：②硬さから⑦保温性までのベッド／床畳用 敷ふとん分類は不用である。
- 青木委員：硬さは個人差があるので 硬ければ★が多くなるので ○印記入とする。
硬さ（案）

硬さ		柔かめ	普通	硬め
単層タイプ			○	
複層タイプ	上層	○		
	下層			○

耐久性は へたりにくさ 表示とする。

- 大川委員：品質表示ラベル用途が先にきて、②～⑦を表記する（案）を次回までに作成するので検討頂きたい。
- 奥谷専務：まくら部会の品質表示ラベルと併せつつチェックして頂きたい。

議題（6）

- 青木委員：経産省他所轄への打診含めて、部会また委員が準備すべきことがあるのか。
- 奥谷専務：マットレス・敷、ふとん、まくら等購入目安表記や、羽毛製品トレーサビュリティのガイドライン策定を打診予定です。その為には消費者、生産者、販売者側等に衆知徹底する説明会開催する必要もあるので、その時にはご協力願いたい。4月秋冬展示会に合わせたいが課題策定もまだあり、10月春夏展示会からスタートしていくことになると思う。
ご協力いただいた各団体の方々には、6月21日JBA懇親会にもご参加を願いたい。
- 古川部会長：次回は、補足の測定データ及び、表記法に関して3月13日午前10時30分～午後3時予定で開催します。 以上